

平成 28 年度 チョウセンハマグリ稚貝特別採捕報告

佐々木隆志 齋藤遼

(益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織)

益田市の津田海岸および中須海岸において、以下の内容でチョウセンハマグリの発生状況の調査を行ったので、ここに結果を報告する。

1. 調査概要

1.1. 津田海岸における殻長分布調査

日時：平成 28 年 8 月 7 日 8:00~12:00

場所：津田海岸

調査実施者：佐々木隆志、齋藤遼（以上アンダンテ 21）

調査補助者：津和野高校生徒 10 名、教員 4 名

採取個体数：チョウセンハマグリ 82 個体（調査後再放流）

内容：津田海岸において、チョウセンハマグリ稚貝の殻長と個体数を調査した。また、参加者に対する環境教育を併せて行った。

1.2. 津田海岸における生息密度分布調査

日時：平成 28 年 8 月 9 日 12:00~16:00

場所：津田海岸

調査実施者：佐々木隆志、齋藤遼、大賀俊彦、豊田武雄（以上アンダンテ 21）

調査補助者：全国高校生環境サミット参加者 60 名

採取個体数：チョウセンハマグリ 386 個体（調査後再放流）

内容：津田海岸において、チョウセンハマグリ稚貝の定区間における生息密度を調査した。また、参加者に対する環境教育を併せて行った。

1.3. 津田海岸における殻長分布調査と標識放流

日時：平成 28 年 8 月 20 日 8:00~12:00

場所：津田海岸

調査実施者：佐々木隆志、齋藤遼、大賀俊彦、豊田武雄、永田康寛、下瀬敏樹、岩崎弘士（以上アンダンテ 21）

調査補助者：公募による市民 3 名

採取個体数：チョウセンハマグリ 1109 個体（調査後再放流）

内容：津田海岸において、チョウセンハマグリ稚貝の殻長と個体数を調査した。また、殻長 20mm 以上の稚貝 225 個体へ標識付けを行った。

1.4. 中須海岸における稚貝発生調査

日時：平成 28 年 8 月 26 日 9:00~12:00

場所：中須海岸

調査実施者：齋藤遼、大賀俊彦（以上アンダンテ 21）

採取個体数：チョウセンハマグリ 33 個体（調査後再放流）

内容：中須海岸において、チョウセンハマグリ稚貝の殻長と個体数を調査した。

2. 調査結果

2.1. 津田海岸殻長分布調査

津田海岸において、1191 個体の稚貝を無作為に採取し、殻長を測定した。この結果より作成した殻長組成分布のグラフを Fig.1 に示す。

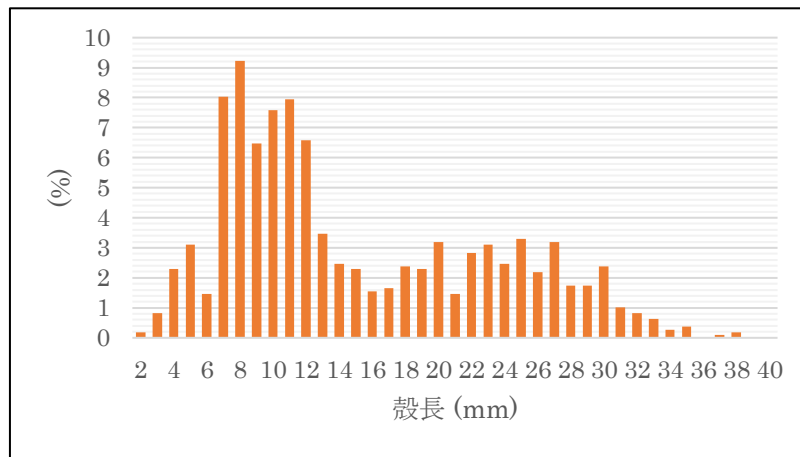


Fig.1 平成 28 年津田海岸殻長組成分布

2.2. 津田海岸生息密度調査

津田海岸において、の波打ちぎわから 5m、10m、15m 地点の 1 m²あたりの稚貝を採取し、個体数を調査した。調査結果を Fig.2 に、調査定点の座標を Table 1 に示す。

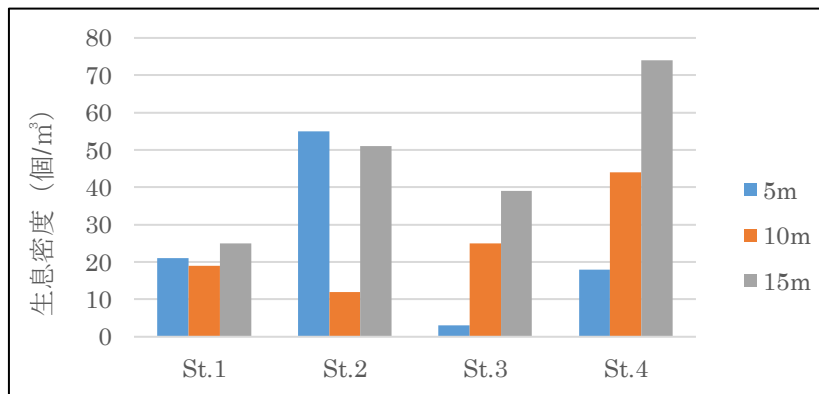


Fig.2 平成 28 年津田海岸生息密度調査結果

Table 1 津田海岸生息密度調査定点

	緯度	経度
St.1	34.43.28.248	131.51.48.690
St.2	34.43.27.528	131.51.46.967
St.3	34.43.26.123	131.51.46.049
St.4	34.43.24.732	131.51.45.077

2.3. 津田海岸標識調査

津田海岸で採捕した稚貝のうち、殻長 20mm 以上の 225 個体の殻に棒やすりを用いて標識付けを行った。標識をつけた稚貝の殻長と個体数を Table 2 に示す。

Table 2 津田海岸標識放流結果

殻長(mm)	放流個体数	備考
20-25	100	縦に一本線
26-30	70	縦に二本線
31-40	50	縦に三本線
56.2	1	横一本線
54.6	1	横一本+縦一本
52.1	1	横一本+縦二本
47.6	1	横一本+縦三本
43.5	1	横一本+縦四本

2.4. 中須海岸殻長分布調査

中須海岸において、33 個体の稚貝を無作為に採取し、殻長を測定した。この結果より作成した殻長組成グラフを Fig.3 に示す。また、今年度の調査では波打ちぎわから約 20m 沖の第一サンドバー付近に多くの稚貝が見られた。

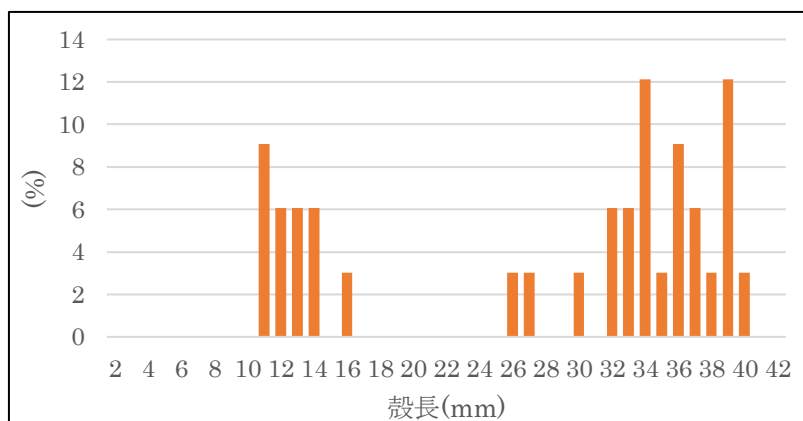


Fig.3 平成 28 年中須海岸殻長組成

3. 総評

本年の津田海岸における稚貝の発生数は極めて多く、同海岸の稚貝密度は3~72（個体/m²）と昨年の0~16（個体/m²）に比べ大幅に増加し、特に2歳貝が占める割合が大きかった。

一方、津田海岸における殻長組成分布によると、2歳貝の殻長の最頻値が11mmとなっており、例年よりも2歳貝の成長が遅れていると言える。また、例年ならば4~6mm程度の1歳貝が多く見られるが、本年は当該サイズの組成比が小さい結果となった。これは、昨年の夏季に高水温が続いたこと、有害プランクトンのカレニアミキモトイの発生などの原因により、成貝の産卵状態が不安定であったためであると推測される。ただし、本年2歳貝が多く確認されたことから、同原因による稚貝の死滅被害は深刻ではなく、今後の漁獲量への影響も小さいものと考えられる。

中須海岸においても、比較的多くの稚貝が確認され、殻長の分布は例年程度であった。

調査位置図



中須海岸



津田海岸